

骨粗鬆症の予防と 治療ガイドライン

2015年版

ポケットガイド

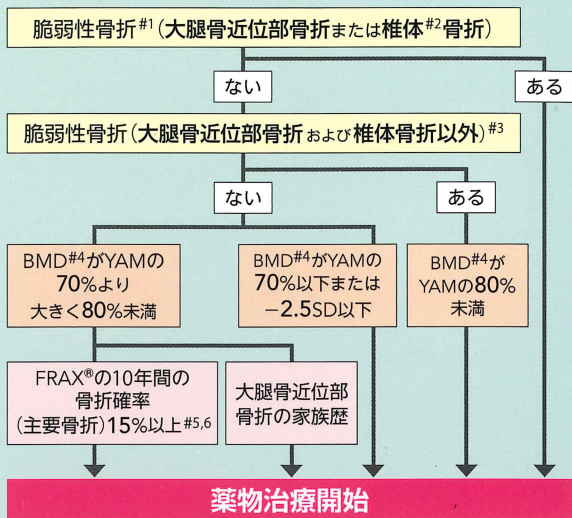
監修：公益財団法人 骨粗鬆症財団 理事長
骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン
作成委員会委員長 折茂 肇



Daiichi-Sankyo

第一三共株式会社

原発性骨粗鬆症の薬物治療開始基準



- #1 軽微な外力によって発生した非外傷性骨折。軽微な外力とは、立った姿勢からの転倒か、それ以下の外力をさす。
- #2 形態椎体骨折のうち、3分の2は無症候性であることに留意するとともに、鑑別診断の観点からも脊椎エックス線像を確認することが望ましい。
- #3 その他の脆弱性骨折：軽微な外力によって発生した非外傷性骨折で、骨折部位は肋骨、骨盤（恥骨、坐骨、仙骨を含む）、上腕骨近位部、橈骨遠位端、下腿骨。
- #4 骨密度は原則として腰椎または大腿骨近位部骨密度とする。また、複数部位で測定した場合にはより低い%値またはSD値を採用することとする。腰椎においてはL1～L4またはL2～L4を基準値とする。ただし、高齢者において、脊椎変形などのために腰椎骨密度の測定が困難な場合には大腿骨近位部骨密度とする。大腿骨近位部骨密度には頸部またはtotal hip (total proximal femur) を用いる。これらの測定が困難な場合は橈骨、第二中手骨の骨密度とするが、この場合は%のみ使用する。
- #5 75歳未満で適用する。また、50歳代を中心とする世代においては、より低いカットオフ値を用いた場合でも、現行の診断基準に基づいて薬物治療が推奨される集団を部分的にしかカバーしないなどの限界も明らかになっている。
- #6 この薬物治療開始基準は原発性骨粗鬆症に関するものであるため、FRAX®の項目のうち糖質コルチコイド、関節リウマチ、続発性骨粗鬆症にあてはまる者には適用されない。すなわち、これらの項目がすべて「なし」である症例に限って適用される。

骨粗鬆症治療薬の有効性の評価一覧

薬剤に関する「有効性の評価(A,B,C)」

●骨密度上昇効果

A 上昇効果がある

B 上昇するとの報告がある

C 上昇するとの報告はない

●骨折発生抑制効果※

A 抑制する

B 抑制するとの報告がある

C 抑制するとの報告はない

※椎体, 非椎体, 大腿骨近位部それぞれについて

分類	薬物名	骨密度	椎体骨折	非椎体骨折	大腿骨近位部骨折
カルシウム薬	Ｌ-アスパラギン酸カルシウム	B	B	B	C
	リン酸水素カルシウム				
女性ホルモン薬	エストリオール	C	C	C	C
	結合型エストロゲン※1	A	A	A	A
	エストラジオール	A	B	B	C
活性型 ビタミンD ₃ 薬	アルファカルシドール	B	B	B	C
	カルシトリオール	B	B	B	C
	エルデカルシトール	A	A	B	C
ビタミンK ₂ 薬	メナテトレノン	B	B	B	C
ビスホスホネート薬	エチドロン酸	A	B	C	C
	アレンドロン酸	A	A	A	A
	リセドロン酸	A	A	A	A
	ミノドロン酸	A	A	C	C
	イバンドロン酸	A	A	B	C
SERM	ラロキシフェン	A	A	B	C
	バゼドキシフェン	A	A	B	C
カルシトニン薬※2	エルカトニン	B	B	C	C
	サケカルシトニン	B	B	C	C
副甲状腺ホルモン薬	テリパラチド(遺伝子組換え)	A	A	A	C
	テリパラチド酢酸塩	A	A	C	C
抗RANKL抗体薬	デノスマブ	A	A	A	A
その他	イブリフラボン	C	C	C	C
	ナンドロロン	C	C	C	C

※1 骨粗鬆症は保険適用外

※2 疼痛に関して鎮痛作用を有し、疼痛を改善する (A)

◎評価基準については、「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版」

iii ページ「ガイドライン作成手順」を参照のこと

ヒト型抗RANKLモノクローナル抗体製剤 薬価基準収載

プラリア[®] 皮下注60mg
シリンジ

一般名 / デノスマブ(遺伝子組換え)

生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品[※]

※注意一医師等の処方箋により使用すること

PRL1S02700-1LS

2015年7月印刷